vinetur

スペインのワイン輸出額、2026年1～9月は6%減の20億ユーロ

DOP瓶詰めワインとバルクワインの出荷減が響き、1～9月期の輸出額は2020年以来の最低水準に

2026年11月20日（金）



スペインのワイン輸出額は2026年1～9月に20億77万ユーロとなり、2025年の同期間から6%減少した。原産地呼称保護（DOP）付き瓶詰めワインとバルクワインの出荷減が、海外売上を大きく押し下げた。

スペイン税務庁のデータを基に、スペインワイン業界連合会が分析した数値によると、輸出収入は前年同期より約1億2,700万ユーロ少なかった。2025年同期の輸出額は21億3,480万ユーロだった。輸出量はさらに大きく減り、14億5,330万リットルから12億6,770万リットルへ12.8%減少した。

輸出額の減少は主に2つのカテゴリーに集中した。DOP付きスティルワインの瓶詰め品は輸出売上が5,510万ユーロ減少し、バルクワインも4,250万ユーロ減少した。この2分野を合わせると、全体

の減少額のうち9,760万ユーロを占め、9カ月間のワイン輸出額の落ち込みの約77％に相当する。

スパークリングワインも大幅に減少した一方、輸出額が増えたのは瓶詰めの品種表示ワインとバッグ・イン・ボックスワインだけだった。ただし、その増加では業界全体に広がる損失を補えなかった。

報告書が参照したデータ系列では、1～9月期の輸出額は2020年以来の最低水準となった。同期間の減少は2年連続となる。輸出額は2024年に22億1,300万ユーロ、2025年には約21億3,500万ユーロだった。2022年1～9月に記録したピークの22億2,400万ユーロと比べると、今年は約2億1,600万ユーロ、率にして9.7％下回った。

金額の減少幅が数量の減少幅を下回ったのは、1リットル当たりの平均輸出額が上昇したためだ。輸出総額と輸出量から算出すると、平均額は前年の約1.47ユーロから約1.58ユーロへ上昇し、増加率は約7.8％だった。この上昇が数量減による損失を抑えたものの、輸出収入全体の減少は避けられなかった。報告書は、平均額には販売商品の構成変化も反映されており、すべてのカテゴリーで同様の価格上昇があったことを意味するわけではないと指摘している。

瓶詰めスティルワインは引き続き輸出額の最大の内訳で、11億5,920万ユーロと、スペインのワイン輸出総額の57.7％を占めた。この大分類の輸出額は4.8％減少した。そのうちDOPワインは8億340万ユーロで6.4％減となり、単独でスペインのワイン輸出額全体の40％を占めた。平均価格は4.5％上昇して1リットル当たり5.34ユーロとなったが、輸出量は10.4％減の1億5,050万リットルだった。

瓶詰めスティルワインの中で、減少率が最も大きかったのは地理的表示保護（IGP）付きワインだった。輸出額は15.7％減の7,510万ユーロとなり、2025年同期から約1,400万ユーロ減少した。輸出量は20.9％減の5,970万リットルだった。平均価格は6.5％上昇して1リットル当たり1.26ユーロとなったが、出荷減を補うには至らなかった。

瓶詰めの品種表示ワインは逆の動きを示し、報告書の全カテゴリーで最も大きく輸出額を伸ばした。輸出売上は9.8％増の1億2,770万ユーロで、前年同期を約1,140万ユーロ上回った。輸出量は2.6％増の6,890万リットル、平均価格は7％上昇して1リットル当たり1.85ユーロとなった。数量とリットル当たりの価値の両方が増加を支えたことが、数値に表れている。

DOPまたはIGPの表示がない瓶詰めワインの輸出額はほぼ横ばいで、1億5,290万ユーロと0.6％減にとどまった。報告書の内訳によると、減少額は約95万ユーロだった。一方、輸出量は7.8％減の1億610万リットルとなったが、平均価格が同率の7.8％上昇して1リットル当たり1.44ユーロとなり、輸出額の減少を抑えた。

スパークリングワインの輸出額は3億3,830万ユーロで、6.9％減、2025年1～9月期から2,520万ユーロの減少となった。減少額の絶対値では、瓶詰めDOPワインとバルクワインに次ぐ3番目の大きさだった。他の複数のカテゴリーとは異なり、平均価格はほぼ変わらず、0.3％上昇して1リットル当たり3.42ユーロとなった。そのため輸出額の減少は、輸出量が7.2％減って9,900万リットルとなった動きとほぼ一致した。

輸出額が増加したもう一つのカテゴリーはバッグ・イン・ボックスワインだった。輸出額は4.8％増の6,840万ユーロとなり、増加額は約320万ユーロだった。輸出量は3.8％増の5,420万リットル、平均価格は1％上昇して1リットル当たり1.26ユーロとなった。バッグ・イン・ボックスと瓶詰めの

品種表示ワインを合わせた輸出額の増加は約1,450万ユーロだったが、内訳に含まれる他のカテゴリーの減少額は1億4,100万ユーロを超えた。

規模の小さい分野では、リキュールワインの輸出額が3,410万ユーロと7.7％減少した一方、平均価格は2.6％上昇して1リットル当たり5ユーロとなった。微発泡ワインは異なる動きを見せた。輸出量は4.4％増の1,460万リットルとなったが、平均価格が9％下落して1リットル当たり1.49ユーロとなり、輸出額は5％減の2,170万ユーロだった。

輸出額の減少が2番目に大きかったバルクワインは、輸出額が3億8,590万ユーロと9.9％減少した。同カテゴリーの輸出量は16.4％減の7億770万リットルとなり、平均価格は7.8％上昇して1リットル当たり0.55ユーロだった。物量面ではスペインの輸出構成で大きな割合を占める一方、金額面での比重ははるかに小さい。バルクワインは輸出総量の約55.8％を占めたが、輸出総額に占める割合は19.2％だった。

バルクワインの内訳では、DOPもIGPも付かないカテゴリーの輸出額が最も大きく、2億5,020万ユーロだったものの、前年同期比では11.1％減少した。バルクの品種表示ワインは1億2,880万ユーロで、5.8％減だった。残りのカテゴリーは大幅に小さい。DOP付きバルクワインは360万ユーロで6.7％減、IGP付きは48.5％減の330万ユーロだった。後者はバルクカテゴリーの中で相対的な落ち込みが最も大きかったが、2025年同期の630万ユーロという小さな水準からの減少だった。

報告書には、ワインだけとは別に扱われるブドウ果汁（マスト）を含む、ワイン業界製品全体を対象とした、より広い範囲の指標も掲載された。この広義のカテゴリーでは、スペインの輸出額は2026年1～9月に23億7,190万ユーロとなり、2025年同期比で7.9％減少した。減少額は2億330万ユーロだった。

この広義のカテゴリーの減少には、ブドウ果汁（マスト）が大きく影響した。輸出額は3億2,250万ユーロから2億5,020万ユーロへ22.4％減少し、減少額は7,230万ユーロだった。マストはワイン業界製品の輸出額全体の約10.5％を占める一方、純減額の約36％を占めた。輸出量は30％減の3億6,420万リットルとなった。平均価格は10.8％上昇して1リットル当たり0.69ユーロとなったが、海外販売量の減少を補うことはできなかった。

報告書の市場データからは、バルクワインとマストの輸出先によって需要にばらつきがあることが分かる。スペイン産バルクワインの最大市場は引き続きドイツで、フランスを上回った。ドイツ向け輸出額は1億1,370万ユーロで9.6％減、フランス向けは9,650万ユーロで15.3％減だった。両市場とも、数量の減少率は金額の減少率を上回り、ドイツでは14％、フランスでは22.1％減少した。

輸出先市場ではポルトガルの順位が上がり、輸出額は21.9％増の3,810万ユーロ、輸出量は14.6％増となった。コートジボワール向けは3,430万ユーロで18.5％増だったが、輸入量は1.6％減少した。同市場での平均価格は19.6％上昇し、1リットル当たり0.61ユーロとなった。

報告書で瓶詰めワインと定義されるのは、スパークリングワインを除く、容量2リットル未満の容器に入ったワインだ。このカテゴリーでは、1～9月期に英国が数量、金額の両面でスペイン最大の市場となり、金額ベースで米国を上回った。